まるごと福祉会が、東信の物流拠点に

上田市

寄付食材などを子ども食堂に配送

■ホットライン信州と連携

上田市長瀬のまるごと福祉会は、NPO法人ホットライン信州（松本市）と連携し、寄付された食材などを食堂に配る「東信地域の子ども食堂応援プロジェクト」の活動を開始。先月下旬には大手飲料メーカーから提供された乳酸菌飲料約2万6000本が運び込まれ、各所に配送された。

ホットラインは95カ所の子ども食堂にトマトジュースを、個人からは寄付の米などを各地の企業や団体、県内の物流拠点にまとめて配布している。

「100周年タイムカプセル」が掘り起こされ、生徒会役員や平成12年度生徒会役員、卒業生ら40余名が同校に集まった。

中庭に集まった40余名が見守る中、校長の佐藤さんが「タイムカプセルの中身は、『夢の実現』をテーマに、『自分たちが将来こうなりたい』と思う職業や夢を書いてもらいました。『ここからの世界はどうなっていくのか』、『地球温暖化』、『ロボット』、『AI』、『ICT』、『ビッグデータ』、『ゲノム』、『ドローン』、『ロボット』、『ICT』、『ビッグデータ』、『ゲノム』、『ドローン』、『ロボット』、『AI』、『温暖化』、『地球』、『夢の実現』、『自分たちが将来こうなりたい』と思う職業や夢を書いてもらいました。」と話す。

「タイムカプセルは